

少年<sup>じゆうねん</sup>たんでいのレンが、お母<sup>おあ</sup>さん<sup>かあ</sup>にたのまれたおつかい<sup>おつかい</sup>をしているよ。

★それぞれの文のしゅ語とじゅつ語をさがそう。

見つけたら、しゅ語には——線を、じゅつ語には——線を引よう。

① レンは、わがしやさんに来<sup>き</sup>ました。

② ところが、わがしやさんはお休<sup>やす</sup>みでした。

③ そのとき、レンに気づいた店長<sup>てんちょう</sup>が、お店<sup>みせ</sup>の中に入れてくれました。

④ 中には、けいさつかんがたくさんいました。

⑤ 店長<sup>てんちょう</sup>は、かいとうK<sup>けえ</sup>からの「よこくじよう」を見せてくれました。

⑥ ねらわれているのは、い間<sup>ま</sup>のこの間<sup>ま</sup>にかざられているかけじくです。

⑦ 店長<sup>てんちょう</sup>は、レンをい間<sup>ま</sup>につれていきました。

⑧ い間<sup>ま</sup>にも、けいさつかんが五人いました。

⑨ レンは、とこの間<sup>ま</sup>の天じようとかべの間<sup>あいだ</sup>にすき間<sup>ま</sup>を見つけました。

⑩ とつぜん、だれかが、「火<sup>ひ</sup>じだ!」と、さけびました。

⑪ すると、い間<sup>ま</sup>にいた大人<sup>おとな</sup>たちは、いっせいに声<sup>こゑ</sup>のほうを見ました。

⑫ でも、レンはかけじくから目<sup>め</sup>をはなしませんでした。

⑬ そのとき、とこの間<sup>ま</sup>の天じようのいたがうごきました。

⑭ そして、天じようにあいたあなから、かいとうK<sup>けえ</sup>の手<sup>て</sup>がのびてきました。

⑮ レンは、大声<sup>こゑ</sup>でみんなに知<sup>し</sup>らせました。

⑯ しかたなく、かいとうK<sup>けえ</sup>はかけじくをあきらめて、にげ出<sup>で</sup>しました。

